

令和元年度 大田区区民協働推進会議（臨時会）

日時：令和元年7月22日（月）

場所：本庁舎6階 602会議室

【次第】

- 1 地域力応援基金助成事業【チャレンジプラス助成】（新規）の審査について
- 2 その他

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・小林・中島・石垣・小白木・中澤・酒井・中原・牛山・小倉

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当2名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和元年度 大田区区民協働推進会議臨時会を始めさせていただきます。</p> <p>本日、委員12名全員の方にご出席いただいています。この臨時会は、本会議が所掌する地域力応援基金助成事業の審査において、令和元年度実施のチャレンジプラス助成における区長推薦団体を決定いただくため、開催させていただくものです。その旨あらためてご了承くださいませようお願い申し上げます。</p> <p>中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは、中島会長に進行をお願いいたします。
会長	<p>小泉部長から挨拶をお願いいたします。</p> <p>《部長あいさつ》</p>
会長	<p>すでに事務局から委員の交代については報告をいただいておりますが、本日、平澤委員の後任の酒井委員にご出席いただいておりますので、自己紹介をお願いいたします。</p> <p>《酒井委員あいさつ》</p>
事務局	酒井委員から提出された紹介シートを委員皆様のお手元に配布させていただいております。前回お配りした皆様のシートと一緒にお控えくださいますようお願いいたします。
会長	<p>会議をはじめさせていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進めたいと思いますが、時間の制約もございますので20時30分までに会議を終了したいと考えております。ご協力をお願いいたします。</p> <p>「チャレンジプラス助成の審査」を議題といたします。</p> <p>事務局より説明をお願いします。</p> <p>《審査資料（秘）配付》</p> <p>《委員全員で審議》</p> <p>《配布資料回収》</p>
会長	本日は臨時会でございますが、お忙しい中、時間を調整していただきお集まりいただ

事務局	<p>きましたので、前回の会議で決定した、取り組むテーマについて、委員の皆様と意見交換をしたいと存じます。</p> <p>先に事務局より何かありますか。</p> <p>令和元年度の調査研究テーマ「協働と学びの地域づくり～社会的包摂による持続可能な地域社会の実現に向けて～」を研究するにあたり、前回の推進会議でお配りした資料を補足する形で、調査研究テーマに関連する用語について説明をさせていただきます。</p> <p>《資料に沿って説明》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）について 2 地域共生社会について 3 生涯学習社会について 4 Society 5.0について 5 SDG sについて
会長	<p>ただいまの説明内容について、質問・意見等がございましたらご発言願います。</p>
会長	<p>これだけの委員がそろっているので分科会を作り、それぞれの意見を伺うというのはいかがでしょうか。みなさんの意見を聞いて実現してください。実現する、実践する人たちを地域に持つことが一番大切だと思っています。</p>
柳谷委員	<p>私が所属しているガールスカウトですでに SDG s の勉強会などを3回ほど行っている。今までやってきたことに当てはまることなので、そこから広げていっています。</p>
櫻井委員	<p>これだけの内容を2年間で行うのは難しいと思います。会長がおっしゃるようにグループ分けをして、少しでも実のある会議を行いたいと思います。</p>
中原委員	<p>「協働と学びの地域づくり」を調査研究を進めるにあたり、事務局の方向性として、民間企業等の連携を超えた、さらに大きな視点で持続可能な地域社会の実現を検討する必要があります、そのために既存の統計調査等を活用しながら地域実態を調査・分析し、時代に即した「協働」と「生涯学習」による地域づくりをめざしていくということによろしいですか。</p>
課長	<p>その通りです。</p>
中原委員	<p>もう一つ、「生涯学習社会」の説明の中で、「地域社会の抱える課題が多様化・複雑化していることに鑑み、地域課題解決の担い手を育てるため、官民を問わず展開される社会教育を振興している」との記載があります。同様なことが、厚生労働省が示す「地域共生社会」の改革の骨格の一つに「多様な担い手の育成・参画」とあります。協働と生涯学習がめざすことに、担い手を含めて、地域に参画できるような社会的包摂の地域づくりをしていくという認識でよろしいですか。</p>
課長	<p>その通りです。地域共生社会の実現に向けては世代間の関わりの必要性が問われています。このような日常の経験があるお子さんは、地域貢献への思いが強まり、活動につながる統計があるとも聞いています。様々な学びを通じて地域活動へという流れをいかにつくるかが課題と考えています。</p>
小林委員	<p>「多様な担い手の育成・参画」というところは、それぞれが学んだことを出せる場というのがなく、結局は、狭い意味で欲しい労働力のようにとらえられているのではないのでしょうか。高齢者・子ども・障がいのことをやっている方が大多数で、それ以外のこ</p>

	<p>とを学んでいらっしゃる方は力を発揮する場がなく、出張所の力を高めて地域力をということをやらないと、結局はこれまでと変わらない内容になるのではないかと思います。</p> <p>また、SDGs「4. 質の高い教育をみんなに」というところは、我々は今キャリア教育ということを行っていて、将来的にこれを受けた生徒に次の職業に就いたときに母校で話をしてもらいたいという目標を持っています。これまでである高齢者・子供・障害という以外のところで広い目で見えていった方が、地域社会というのは持続可能になるのではないかと思います。</p>
会長	<p>やはり、分科会の中でそういう問題を広めていくということでしょう。あまり初めから広めていくとまとまり切れなと思います。</p>
課長	<p>分科会設置の考え方としてですが、助成金の審査分野に 11 分野あり、その分野を参考にして考えてみるのはどうでしょうか。次回、推進会議の場において、事務局で案を提案させていただこうと思います。</p>
志村委員	<p>私たちがすでに取り組んでいること、できていることを気持ちよく吸い上げていく、そこで足りないところを協働していくことが大切だと思います。区としても重複や漏れていたりすることがあると思います。</p>
会長	<p>ここでやったものが地域住民に実際にちゃんと反映されるものではないとだめだと思います。それが今までは欠如しておりましたので、今後はそれを目的にして、じっくり考えてもらうようお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>予定しておりました議題は以上でございます。 次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p> <p>《令和元年度 第3回は、9月24日（火）に開催》</p>
会長	<p>会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>